

総合計画(中期)策定に向け、平成30年3月に18歳以上の市民から無作為に抽選された2,000人にアンケート調査を行い、630人の方から回答をいただきました。その際いただいた意見や質問、提言などについて、毎月テーマごとに、市としての方針や考え方などをお知らせします。



今月のテーマ

市立総合病院について

いただいた意見、
質問、提言など

◆市立総合病院に関する問い合わせ
市立総合病院事務部総務課
☎01654③3101

「待ち時間が長い。順番を表示するものも設置されていないのでいらいらする」
「ほとんどの外来が予約制になり、症状が心配ですぐにかかりたいのにかかれない。予約が取れない状況で、とても使いづらい」「駐車場を広くしてほしい」など

回答

市立総合病院は、昭和12年に名寄町立社会病院として開設されて以来、地域の医療を中心的に担う医療機関として発展してきました。特に平成4年の全面改築以降は、歴代院長の運営方針により診療科目と医療機能の拡充が図られるとともに、近隣市町村の病院等では医療体制が縮小していることなどから、当院がより広域での中心医療機関としての役割が高まってきました。

国が進める今後の医療のあり方については、これまでの「病院完結型」の医療から高齢者が住み慣れた家庭や地域で生活を継続できるよう、医療から介護までを一貫して提供できる体制に見直す改革が進められています。この方向性に沿って、現在、北海道が中心となり地域医療構想の推進に向けた医療機関の役割分担が調整されています。これにより、初期の診断や生活習慣病をはじめとする慢性期の医療は地域の医療機関(かかりつけ医)が診療を行い、専門的な検査や手術が必要な診療は地域の中核病院が行うという機能分担がより明確になっていきます。

こうした背景のもとで当院には、救命救急センターを有する道北三次医療圏の地方センター病院として、上川北部のほか宗谷・留萌・網走圏域の一部を含む広域の急性期医療を担う役割が求められています。実際に平成29年度実績として、外来は39%、入院は56%の方が市外からの利用者となっています。今後は、医療圏全体の人口減少が進んでいく中で、現在の機能を維持していくことが最も重要な課題であり、より広域からの受け入れを増やしていくことも必要となっていきます。

ご意見にありますように、外来の予約枠や待ち時間、駐車場の一時的混雑など、ご不便をお掛けしている点については充分認識していますが、即座に改善できる状況にないため、受診の際はお時間のゆとりと公共交通機関のご利用などを皆さまにお願いしています。利便性の改善に向けては少しずつですが、委託事業者も交えて取り組みを進めています。

広域の急性期医療を支え、次代の医師を養成する病院があることは、市にとって他の自治体に無い優位性となっています。今後もしっかりと病院運営を継続していくために、新名寄市病院事業改革プランに沿って事業を推進していきますのでご理解をお願いします。

参考

名寄市立総合病院 外来患者数の推移 (単位：人)

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
市内	133,469	137,081	138,321	137,619	136,610	136,071	138,715
市外	83,438	86,080	88,254	90,002	88,343	86,877	92,860
合計	216,907	223,161	226,575	227,621	224,953	222,948	231,575

※平成30年度は推計値